



美濃口 集議員《新政いさま》

転園時の基準点数見直しについて

本市の保育所入所選考基準に、保育所等に入所している者の転園希望については、ゼロ点とすると明記されています。近隣自治体では、転園をしたときに減点になるとの回答がありましたが、減点というのは、ゼロ点になるわけではなく、転入した先の自治体での持ち点から点数が減点されるという認識でよいのか、また、転園時にゼロ点になるのは県内では本市だけなのか、確認のため伺います。

こども未来部長 近隣自治体での転園希望の際の減点の取扱いは、議員言及のとおりです。

【再質問】 転園について、

神奈川県内でゼロ点なのは本市だけということが明らかにになりました。こども未来部長から、選考基準の見直しを検討していくという回答もありましたが、やはり県内でゼロ点なのは本市だけであることから、検討していくのではなく、選考基準の見直しを実施したほうがよいと思いますが、見解を伺います。

こども未来部長 毎年、社会情勢などを考慮しながら選考基準を見直していますが、令和8年度については、転園希望の基準点数を含めて、各家庭の状況に沿った基準となるよう、必要な見直しを実施していきたいと考えています。



竹田 陽介議員《自由民主党座間市議団》

災害用物資・資材について 乳児用ミルクの備蓄を検討

内閣府が公表しているデータを基に、民間企業が南海トラフ地震の被害が想定される自治体の備蓄状況を調べたところ、被害が想定される自治体の6割で、簡易トイレ等、国が被災者の命と生活環境を守るために不可欠な必需品と位置づけている基本8品目のいずれかがゼロであったとのこと。そこで、本市の災害用物資・資材等の備蓄状況についてお聞きします。

くらし安全部長 基本8品目の備蓄状況は、食料約10万食、毛布約1万枚、乳児・小児用おむつ約6千枚、大人用おむつ約4千枚、携帯トイレ・簡易トイレは段ボールト

イレが約4千個、組立て式トイレが約300基、トイレレットペーパー約1万6千ロール、生理用品約4万3千枚を備蓄しています。乳児用粉ミルク及び乳児用液体ミルクは備蓄していません。

【再質問】 乳児用のミルクの備蓄について、考えをお示しください。
くらし安全部長 乳児用ミルクの備蓄については、保存期間が短いことや、保管場所の確保などの理由から備蓄をしていません。しかし、令和6年能登半島地震の教訓等を踏まえて示された基本品目です。本市として備蓄することを検討します。



伊藤 多華議員《座間市公明党》

本市の地域資源・緑豊かな公園を利用したプロモーション活動を問う

本市には、緑豊かな谷戸山公園、芹沢公園といった貴重な緑地があります。森林浴は、都市化やデジタル化が進む現代社会において、自然とのつながりを取り戻す手段として注目されており、森林浴を取り入れたトリートメントやエコツアーが増加し、観光産業としても連携が進み、ストレス関連疾患の予防や治療の一環として森林浴が処方されるケースが増える可能性があると言われています。これらの資源を生かし、市民の健康増進や地域交流の促進を図る取組として、癒やしの森や健康の森といったテーマでPRすることや、更には、体験型ふるさと

と納税の返礼品にすることにしているのを見聞しています。
市長 体験型の返礼品は、本市の魅力発信し、地域活性化につながる可能性があるものと考えています。他市の事例を参考にしつつ、関係団体等と協議し、検討を進めていきたいと考えています。

地域づくり部長 本市の地域資源である谷戸山公園や芹沢公園を癒やしの森、健康の森といったテーマでPRすることは、市の魅力発信につながるものと考えています。早急に進めるとともに、今後プロモーション力を高め、魅力ある地域づくりに努めていきたいと考えています。



加藤 学議員《座間市公明党》

訪問入浴サービスの継続と事業者支援を求める

重度障がい者や高齢者の生活を支える訪問入浴サービスについて、市内事業者が撤退したことで、利用者に大きな混乱と不安が生じました。事業者が撤退した理由と、利用者への影響について伺います。

また、今回のように突然事業者が撤退するケースに備えて、利用者の生活を守るための継続担保の仕組みや、将来の在宅福祉ニーズの増加に備えた、柔軟な制度設計が必要と考えますが、見解を伺います。
福祉部長 撤退理由は、本市が報酬単価を上げましたが、事業継続が困難との判断によるもので、影響を受けた利用者は11名でした。代替事

業所の確保に向け、他の事業所に働きかけ、新たに2事業所の登録がありました。今後事業継続が可能な報酬単価の適正化に努めますが、事業所の在り方や運営方針等によって撤退の選択をすることは、ほかの事業にも見られることです。事前にその部分を担保するような制度を使うことや、創設できることがあれば理想ですが、現状では、その危機管理の部分についてまで市が支援することは困難であり、新たな補助制度等の導入は考えていません。どのサービスについてもできるだけ継続していただけるように、これからも努めていきます。



星野 久美子議員《日本共産党座間市議団》

医療用ウィッグ購入費助成を強く求める

アピアランスケアとは、がん治療によって起こる外見の変化に悩む患者のために、安心して過ごせるよう外見の補完や心理的負担を軽減し、その人らしいスタイルを見つけたいというサポートです。全国1741の自治体の中で、何らかのアピアランスケアの施策がある自治体は、1114に上っています。市として、病気に苦しむ市民に寄り添う姿勢が必要で、医療用ウィッグの購入費助成を求めますが、見解を伺います。

市長 がん患者に対する現行の国の支援施策は十分とは言えない部分があるとも捉えています。こうした現状を踏まえて、本市としても、国に

対し、必要な支援制度の構築を働きかけていくとともに、患者本人をはじめ、家族にとつて真に必要な支援とは何かを検討していきたいと考えています。

【再質問】 病で苦しんでいる人たちに、いかに寄り添えるのが大事だと思います。医療用ウィッグや、乳房の補整具などの購入費助成は、その一つの手段にすぎなくとも、ぜひ実施してほしいと強く思いますが、見解を伺います。
健康部長 有用性については認識していますので、今後の実施の可否も含めて検討していきます。



星野 郁議員《あおぞらひまわりの会》

市内小・中学校の安全確保について

東京都立川市にて男性2名が小学校に侵入した事件が発生しました。学校に不審者が侵入した際、教職員が対応しなければならぬ状況です。侵入経路を減らし、学校の安全を守る教職員の負担を軽減するために、建物の出入口、中でも職員及び来校者用の玄関をオートロックにするような対策が現実的かと考えます。

このような対策の有効性について当局の見解を伺います。
教育部長 職員及び来校者用玄関をオートロックにすることに、特に教職員の在籍人数が減少する放課後の時間帯において人の出入りを制限することができ、安全性の

向上という観点で有効であると考えます。
【再質問】 市内の小・中学校において、職員及び来校者用の玄関についてオートロック化されている学校は、何校あるのか、現在の状況を伺います。また、導入されています。また、導入されていない学校については、今後のオートロック化の方向性をお示しください。

教育部長 小学校では11校中6校、中学校では6校中5校にオートロックを設置しています。中学校の残り1校には6月中に設置する予定です。小学校の残り5校についても、オートロックの設置について検討を進めていきます。

会議録をご覧ください

座間市議会だよりでは、各議員の文責により質疑・質問・答弁・討論の発言の一部を抜粋して掲載しています。詳細は会議録をご覧ください。パソコンやスマートフォンから市議会のホームページでご覧いただけます。また、市役所1階の市民情報コーナー、図書館でもご覧いただけます。なお、6月定例会の会議録は8月下旬ごろから閲覧できます。

請願・陳情の提出について

請願陳情はいつでも受け付けています。提出された請願・陳情は年4回開催される定例会において審査されます。

請願・陳情の記入例は市議会のホームページをご覧ください。

なお、提出の際にご不明な点や定例会ごとの締切日は、議会事務局にお問い合わせください。
☎046(252)8872